

【4年生】

	児童の現状の分析	授業改善の方針
<p>国語</p>	<p><b>〈読解について〉</b>                      ○音読や読書に意欲的に取り組むことができる児童が多い。</p> <p>○文学的文章では、人物の行動や言葉から気持ちを想像して内容の大体を読むことが概ねできている。</p> <p>○説明的な文章では、指示語が指す内容を正しく捉えたり、段落相互のつながりを考えて読んだりすることに課題がある。そのため叙述を基に筆者の考えを整理したり要旨を把握したりすることが十分にできていない。</p> <p>○語彙力や生活経験の差が大きく、比較的平易な言葉であっても、意味を正しく理解したり様子をイメージしたりすることが難しい児童もいる。</p> <p><b>〈書くことについて〉</b>                      ○文章を書くことに苦手意識を感じている児童もいる。</p> <p>○語彙力、表現力の個人差が大きく自分の思いや考えを適切に文章で表現することが難しい。</p> <p>○書いた文章を読み返す習慣が十分に身に付いていない。</p> <p>○TOFASの結果を見ると、正答率は板橋区平均に近い値であった。単元別では「書き」の正答率がやや低い傾向が見られた。</p> <p><b>〈漢字について〉</b>                      ○漢字の定着度は、個人差が大きい。</p> <p>○習った字を文章の中ですすんで書こうという意識が乏しい。</p>	<p><b>1 読解について</b></p> <p>○音読のめあてを設定し、児童が読みのねらいを意識して取り組めるようにする。</p> <p>○読書週間や「読書のあしあと」に、年間を通じて読了した本を記録させる本校の取り組みや、成増図書館と連携したブックトークの実施を通して、多くの児童の読書量や語彙量を増やせるようにする。</p> <p>○ポプラタイムを活用して、主語・述語、修飾語、助詞などの言語事項について、継続的に指導する。</p> <p>○「読み解く力」の育成について計画的に指導を積み重ねる。特に「係り受け解析」（主述関係・修飾被修飾の関係）、「照応解析」（指示語の読み取り）、「イメージ同定」（図表や絵や写真等と文の関係から読み取る）については国語における学習を生かして他教科の授業でも意識的に指導する。</p> <p>○意味調べの時間を十分に確保し、国語辞典を用いて分からない言葉を調べ、意味を正しく捉えたり、活用したりできるようにする。</p> <p><b>2 書くことについて</b></p> <p>○国語の授業だけでなく、機会を捉えて計画的、継続的に文章を書くことに取り組めるようにする。</p> <p>○ポプラタイムを活用して10分間の視写を行い、文字を認識し理解する力を高める。</p> <p>○手順を明確にした作文指導を行うことで文章を書くことへの抵抗感を少なくしていく。</p> <p>○主述の呼応、誤字、脱字等の表記の仕方といった表記上の観点を明確にして、書いた文章を読み返し修正するという習慣作りをする。</p> <p><b>3 漢字について</b></p> <p>○宿題等で継続的に繰り返し練習できるようにして定着を図ると共に、日常的に既習漢字の活用を促す。</p>

<p>社 会</p>	<p>○映像資料を見たり、ゲストティーチャーの話を聞いたりする活動において、意欲的にメモを取る児童が多い。</p> <p>○単元全体の学習問題について、自分たちの生活と関連付けて考えることが十分に身に付いていない児童もいる。</p> <p>○資料から必要な情報を読み取ることが苦手な児童がいる。</p>	<p>○調べたことをまとめる多様な表現方法を経験させ、箇条書きや分かりやすい見出しなどを指導し、適切にまとめる力を伸ばす。また、まとめた記述内容について ICT 機器を活用してクラス全体で共有し、学び合いを重ねていく。</p> <p>○既習事項や児童の生活経験を生かしながら、学習問題を設定する。社会科見学や出前授業の機会を捉え、地域や社会を支える仕事をしている人々の努力や工夫に気付かせる。また、地域社会の営みに目を向けさせるようにする。</p> <p>○資料の提示の仕方を工夫し、授業の中で資料を見るポイントを明確にして、読み取った情報を全体で確認する。</p>
<p>算 数</p>	<p>○TOFASの結果を見ると、正答率は板橋区平均に近い値であった。単元別では「ひき算」の正答率がやや低い傾向が見られた。東京ベーシックドリルの診断シートの結果は「整数の表し方」「整数のかけ算」「式による表現」「円と球」「二等辺三角形と正三角形」「時刻と時間の単位」「表と棒グラフ」の正答率が低かった。</p> <p>○基本的な四則計算のやり方は理解している児童が多い一方、正確さと計算にかかる時間の個人差が大きい。中には九九があやふやな児童もいる。3桁×2桁のかけ算や、3桁÷2桁の割り算など、計算が難しくなったり手順が複雑になったりすると、ミスが増える。</p> <p>○自分の考えを、筋道を立てて説明したり図表や数直線を用いて表したりすることの能力の差が大きい。また、思考力を問う問題・応用問題の正答率が低い。</p> <p>○分度器の使い方や図形の作図では、正確に作図したり角度を測ったりすることが苦手な児童もいる。</p>	<p>○朝学習の時間にベーシックドリルを活用したり、授業の中で基礎的な計算問題に取り組んだりする時間を設け、計算能力の定着を図る。特にベーシックドリルの正答率が低かった単元の問題については、繰り返し復習する。また、家庭学習でも定着を図る。</p> <p>○既習事項を活用し、自分の考えを図や表、式、数直線などを使って表現する活動に、繰り返し取り組むようにする。また、問題解決学習を取り入れ、自力解決や集団解決を通して思考力や表現力を身に付けさせていく。</p> <p>○授業の中で、定規や道具を使う活動を意図的に作り、正しい使い方が身に付くよう繰り返し指導する。</p>
<p>理 科</p>	<p>○理科の実験や観察などには興味をもって取り組んでいる。</p>	<p>○興味や関心をさらに刺激するような体験や活動から問題づくりを行い、実験や観察など体験的な方法を多く取り入れることで、実感</p>

	<p>○問題を見出す力は身に付いてきたが、既習の知識や生活経験から根拠ある予想や仮説を発想する力が十分に身に付いていない。</p> <p>○基本的な実験・観察の技能が十分に身に付いていない児童が存在する。</p>	<p>ある理解を導く。植物の観察にはタブレット端末を活用し、様子を詳しく捉えたり、変化を比較したりするように促す。</p> <p>○「問題づくり→予想→実験・観察→結果→考察→まとめ」の流れを意識した授業づくりを行い、学びのプロセスを定着させる。問題づくりのあと、すぐに実験や観察に進まず、必ず予想を立てるようにする。その際、既習の知識や生活経験を生かして「根拠のある予想」を立てるよう指導する。</p> <p>○実験前に、道具の使い方や安全指導を確実に行う。危険度の高い活動では、必ず演示を行う。特に、加熱器具の指導は丁寧に行う。</p>
音 楽	<p>○明るく意欲的に授業に取り組む児童が多い。</p> <p>○美しい声に憧れをもち、豊かな響きのある声で歌える児童が増えてきた。</p> <p>○私語が多く、集中力が途切れてしまう児童がいる。</p>	<p>○児童にとって分かりやすく、意欲的に取り組めるような教材を工夫する。また、頑張っている部分をその都度褒め、更に高い目標がもてるように指導する。</p> <p>○常に綺麗な声で歌えることを目標とし、基礎的な発声法や歌い方、言葉の扱い方など身に付けさせる。</p> <p>○今何をすべきかと端的に伝えるようにしたり、児童が意欲をもって学習できるよう、学習内容を工夫したりする。</p>
図 工	<p>○既習の技能を活用できている児童が多く、発想豊かである。</p> <p>○豊かに発想できる一方で、イメージをより深めたり、表現方法を考えたりすることに課題がある。</p> <p>○課題や手だてが掴めないために、主体的に学ぶ姿勢になれない児童がいる。</p> <p>○振り返りの充実（ICTの活用）</p>	<p>○活用を想定される技能について、いつでも児童が選択し、使用できるように用具の準備や環境整備を行う。また、既習を生かして活動している児童の姿を認め、評価する。</p> <p>○イメージをより深めていけるような発問や例示を工夫する。また、児童がより積極的に取り組みたくなるような材料や用具の準備を行う。</p> <p>○題材研究を進め、材料や用具、技法を吟味し、どの児童も自分で進めることができる、かつさらに活動したい児童にとっては工夫のできる題材を開発する。</p> <p>○振り返りの内容を蓄積し、児童が自他の意見から学びを価値付けられるようにするために、フォームで振り返りを提出、スプレッドシートで内容を確認できるようにする。</p>
体 育	<p>○すすんで運動しようとする児童が多い。</p> <p>○生活や遊びの中での経験に差があり、</p>	<p>○段階を踏んだ指導を充実させ、できた喜びを味わわせる。</p> <p>○練習の場や方法を工夫し、経験や技能に差が</p>

	<p>技能差がある。</p> <p>○ゲーム領域など、チームで協力する活動は意欲的に楽しむが、勝敗にこだわり過ぎてしまったり、得意な子だけが活躍してしまったりする場面もある。</p>	<p>あっても、楽しく、めあてをもって取り組める活動を工夫する。</p> <p>○ルールを工夫し認め合う声かけやアドバイスの声かけの仕方を指導し、できるだけ関わり合いを積み重ねる。単元の導入で動画を見せて運動のイメージをもたせたり、運動の様子を撮影してグループで高め合う場を設けたりするなど、ICT 機器を活用していく。</p>
道徳	<p>○登場人物の気持ちの変化や葛藤を捉えることができている児童が多い。</p> <p>○価値項目の課題を自分事として捉え、自らの生活を振り返り、できた経験、できなかった経験を想起して、それについての考えをもつことが難しい。</p>	<p>○毎時間の学習において価値項目に迫る発問の後、自分の経験を振り返ったり、友達の経験を聞いたりする学習活動を位置づけ積み重ねる。</p>
総合的な学習の時間	<p>○「課題設定」の過程では、主体的に課題を設定できる児童が少ない。</p> <p>○「情報収集」の過程では、インターネットに頼ることが多い。</p> <p>○「整理・分析」の過程では、得た情報をそのまま使用することが多く、図や表等に整理することが難しい。</p> <p>○「表現・まとめ」の過程では、相手意識をもち、意欲的に表現することができる。</p>	<p>○困り感があり解決の必然性がもてる問題を提示し、主体的・探究的に学習できるようにする。</p> <p>○「情報収集」には、本や図鑑、インタビューなど、様々な手段があることを紹介する。</p> <p>○ゲストティーチャーを依頼し、生きた情報を得ることで課題解決への糸口を見つけさせる。</p> <p>○収集した情報から必要な事柄を取捨選択できるように、目的意識・相手意識を明確にさせる。</p> <p>○課題解決のため、協働作業の大切さに気付かせる。</p> <p>○課題解決内容を、学校にとどめておかず地域の方に提案する等、地域に広げていく。</p>
外国語活動	<p>○外国語への興味・関心が高く、意欲的に取り組む児童が多い。</p> <p>○歌やゲームを通して、発音できる単語や文章はあるが、日常生活に生かせる程は定着していない。</p>	<p>○学習への興味が持続させるため、授業の導入で、挨拶・曜日・天気など基本的な日常会話を発音する場面を設定する。</p> <p>○表現の定着を図るため、デジタル教科書を使って歌やゲームに繰り返し取り組ませる。日常生活に生かせるよう、外国語活動以外にも外国語で質問を投げかける。</p>